

平成17年3月の解説（府県天気予報）

【3月の天候状況】

低気圧が日本付近を頻繁に通過し、天気为数日周期で変わりました。低気圧の通過前には気温が上がり、通過後には一時的に冬型の気圧配置となって気温が下がるため寒暖の差が大きくなりました。北・東日本の日本海側では、低気圧や前線の影響で曇りや雨または雪の降る日が多く、月降水量が平年の150%を超えたところもありました。西日本や南西諸島では月平均気温が平年に比べて1～2℃下回りほぼ10年ぶりに低温となりました。

【3月の検証結果】

17時発表「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報・明後日予報ともに81%で、明日予報は例年^(注)より2ポイント低下しましたが、明後日予報は例年より3ポイント高くなりました。地域毎の適中率は、明日予報では東海地方から九州北部地方にかけて例年より4ポイントから10ポイント低く、北陸地方では5ポイント、沖縄地方では8ポイント高くなりました。明後日予報では四国地方と北九州地方を除き例年より高くなりました。

最高気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より小さく、全国平均では例年より0.2℃小さい1.7℃でした。最低気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年並で、全国平均では例年と同じ1.6℃でした。

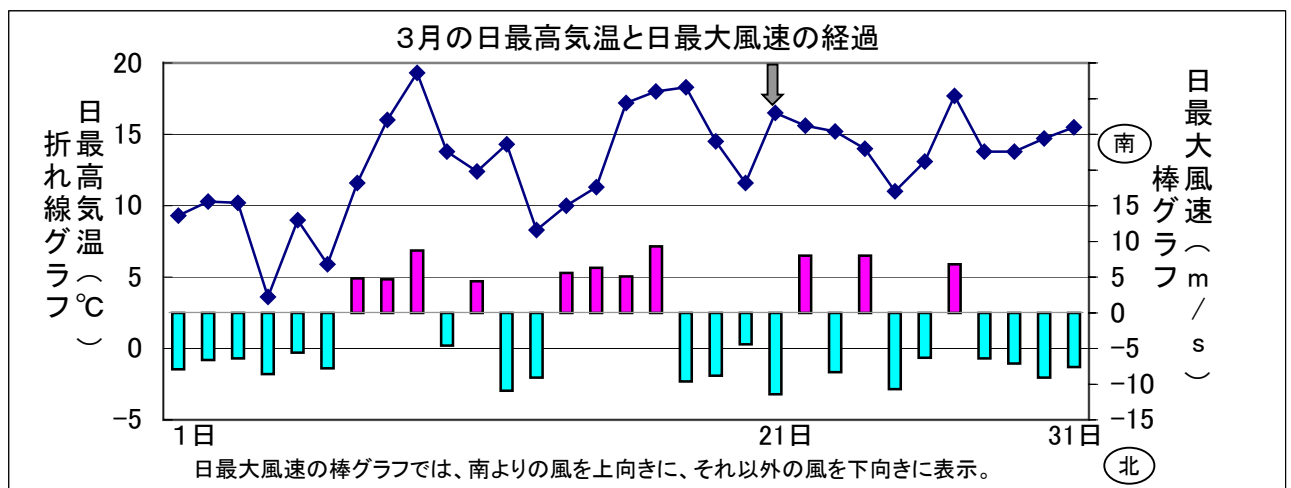
^(注) 例年値は気象庁HP（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の天気予報から】

—— 北風なのに暖かい日（東京地方の21日について） ——

冬季の北よりの季節風が持続しやすい気圧配置に代わって、3月は、低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、暖かい南風と冷たい北風の状態を交互に繰り返しながら、だんだんと暖かくなっていきます。この時期は、寒暖の差が大きいのが特徴です。

東京でも、日最大風速の風向が南より（ここでは西南西～南～東南東の風とします）となったのが今年1月、2月ともに2回に対し、3月には11回に増えています。また、日最高気温の3月中の経過を日最大風速と比べて見ると、最大風速が南よりの風であった日と、最高気温が高めとなった日が大まかには対応しています。

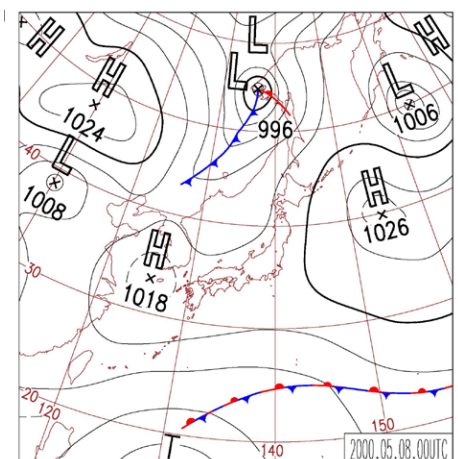
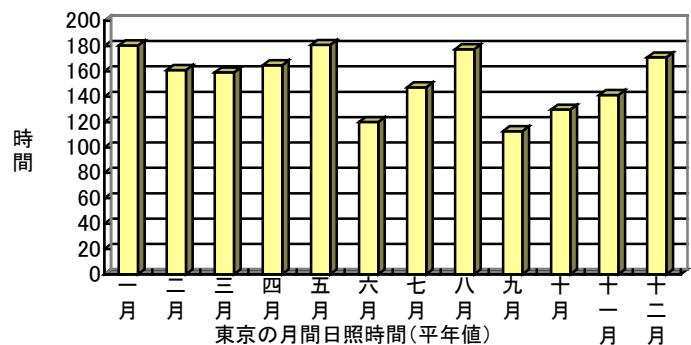


しかし、東京での気温と風の間係をさらに詳しく見ていくと、北よりの風が強まったにもかかわらず、前日より高い最高気温の日が時々現れていることがわかります。西と北に山地が連なる関東地方でしばしば見られる現象で、この山越えの北風は“フェーン”として知られており、相対的に高温で乾燥となることが特徴です。例えば 21 日（図中↓印の日）は、やや強い北よりの風（北西 11.4m/s）が吹き、最高気温が 16.5℃で前日より 4.9℃高くなり、最小湿度は 9%で、2002 年 3 月 18 日と並んで、3 月として最も乾燥した記録となりました。

この日の前日 17 時に発表した天気予報では、東京地方の最大風速を 6～9m/s と予想しましたが、実際にはこれよりも強い風が吹き、その結果、最高気温も予想より 1.5℃高くなりました。風が予想より強くなった原因としては、前日夜遅くから当日明け方にかけて北日本を通過した低気圧が予想よりも発達したことなどが考えられます。

【5 月の天気予報の利用にあたって】

5 月は晴れる日が多い月です。東京の日照時間の平年値（下図）で見ると、1 月に次いで多くなっています。これは、日本付近を移動性高気圧が通過することが多いためです。しかし、穏やかな晴れの日が多い反面、低気圧が発達しながら通過し、大荒れの天気となる場合があります。また、発達した低気圧が通過しなくても、上空に北からの冷たい空気が入って大気の状態が不安定になり雷が発生してひょうが降る天気になる場合もあります。ひょうは春から夏にかけて次第に積乱雲が上空高くまで発達することにより成長しやすくなりますが、気温が夏ほど高くない 5 月は途中で溶けずに地上に落ちやすくなります。



2000 年 5 月 8 日 9 時の天気図

2000 年 5 月 8 日の天気図（右図）では日本付近には低気圧がありませんが、7 日から 8 日にかけて本州の上空に非常に冷たい空気が入って広い範囲で大気の状態が不安定となったため、東北地方から東海地方にかけてところどころで雷が発生してひょうが降り、農作物等への被害が発生しました。

5 月は晴れの日が続くこともあり、行楽やスポーツなど屋外で行動する機会が多くなりますが、穏やかな晴れから一天にわかにかき曇り、天気が急変してひょうが降ったり雷が落ちたりすることもありますので、警報、注意報や天気予報などの最新の気象情報をこまめにチェックすることをお勧めします。